

台風

雨

と

風

気象情報

台風の月別発生数と上陸・接近数の平年値 (1961~1990)

項目 \ 月	1~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年計
発生数	1.2	0.7	1.1	1.9	4.2	5.5	5.2	4.0	2.7	1.2	27.8
日本上陸数	—	—	0.0	0.1	0.4	1.2	0.8	0.2	0.0	—	2.8
九州北部接近数 (山口県含む)	—	0.0	—	0.3	0.7	1.3	0.7	0.2	0.0	—	3.1

台風は30年間の平均で毎年28個発生し、そのうち3個が上陸しています。上陸はしなくても毎年11個程度の台風が日本に接近しています。

台風は8月の発生数・上陸数が9月を上回っていますが、大きな被害を与えた台風は9月が多くなっています。

雨

台風はそれ自体が大雨を降らすほか、日本の上空に停滞する前線を刺激するため、前線付近に集中豪雨をもたらす、局地的な災害を引き起こします。多いときには年間降水量の半分近くに達する場合があります。

地域によっては少し違いはありますが、1日に150ミ、1時間に50ミの雨で被害が始めるといわれています。雨量は次の方法で知ることができます。

① 雨音が聞こえ水たまりができる
② 1時間雨量は5〜10ミ
③ 一面に水たまりができ話し声が聞きとれないときは10〜20ミ
④ 土砂降り状態で下水がたちまちあ

ふれるときは20〜30ミ④バケツをひっくり返したような降り方は30ミ以上

大河川のはんらんは雨のピーク後に発生し、中小河川は雨が降り出してまもなく起こるのが特徴です。1時間30ミの雨が降ると、土砂崩れが発生するおそれがあるといわれています。

風

風向きで台風の進路がわかります。中心が西側や北側通過の時は、風向きは時計まわりに変化し、東側や南側通過の時は反時計まわりに変化します。一般的に中心に向かうほど風速は

瞬間的に吹く最大瞬間風速は、10分間平均の最大風速の約1.5倍〜2.0倍に達することがあります。

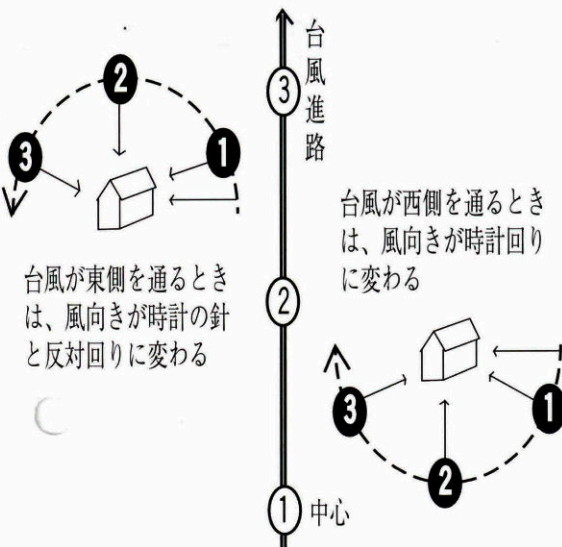
強まり、中心から50km〜150kmぐらいの所で最も風が強く、近づくと台風の眼に入ると風は弱まります。しかし中心から遠く離れたところでも強い風が吹くことがあり安心はできません。

風速は地形などの影響を強く受けるため、局地的に異常に強い風が吹くこともありますので十分な注意が必要です。

風と被害の関係は、①風速10m/sでかさがささない②風速15m/sで看板やトタンがとびはじめる③風速20m/sで小枝が折れる④風速25m/sでかわらがとび、テレビアンテナが倒れる⑤風速30m/sで雨戸がはずれ、家が倒れることもある。

この風速とは10分間平均です。瞬間的に吹く最大瞬間風速は、10分間平均の最大風速の約1.5倍〜2.0倍に達することがあります。

台風の移動による風向きの変化



台風の中心が近づいてくると次第に風が強くなり、眼に入ると急に風が弱くなる。通過と同時に風向きは反対になり強い風が吹き返す。

これ

5kmごとの1時間ごとの雨量を、3時間先まで予報(降水短時間予報)。雨の降り始めや終わりの時刻の目安として、また河川の水位予想や土砂災害の危険



① どうで、どれだけ降る?

雨の可能性30%とは降水確率30%という予報が100回発表されたとすると、そのうち約30回は1ミ以上の雨が降るという意味で、雨量や強さとの関係はない。

雨具の準備の参考に!



② かさが必要な?

「正午から午後6時までの雨の降る確率は30%」など、1ミ以上の雨または雪の降る可能性を発表。この場合県内のどの地点でも、同じ可能性(30%)で雨が降ることを意味している。



③ 何時から雨になる?

3時間ごとの天気・降水量・気温を、約20kmごとの分布図の形で24時間先まで予報。毎日6時、12時・18時の3回発表